



川崎市議会議員

本間 賢次郎 ケンジロウ

市政レポート No. 48 (令和3年10月号)

未来へ働き続ける、想いを「ツナ」ぐ。
イメージキャラクター：本マグロ ツナジロウ

事務所 〒210-0834 川崎市川崎区大島3-14-17
TEL044-742-8072 FAX044-211-1081

ごあいさつ



↑ 9月2日の本会議にて代表質疑を行った本間 賢次郎。後ろは橋本 勝議長。

「決算議会」と呼ばれる秋の議会は、今月8日に会期末を迎え、行政はいよいよ来年度予算編成に向けた動きが本格化します。

本間賢次郎は、今定例会において、自民党川崎市議団を代表した質疑に二度登壇。補正予算として計上されたコロナ禍における新生児の子育て支援についての代表質疑、決算審査特別委員会全体会では分科会報告を踏まえた総括質疑の担当者となりました。

機動性あるコロナ対応、来年度の予算編成に向けた行政への要望・提言を行い、安心感ある市政、コロナ後の社会の土台作りに全力を注いで参ります。

決算審査特別委員会・まちづくり分科会にて、 京急川崎駅周辺再開発事業について質問！

9月21日に行われた決算審査特別委員会・まちづくり分科会にて、地元・川崎区の「京急川崎駅周辺の再開発事業」について質問を行いました。

私はこれまでも、JR川崎駅・京急川崎駅の東側における活性化を議会でも頻繁に取り上げ、特に、令和5年に起立400年を迎える東海道川崎宿の記念事業や京浜地区に誇る歴史資源である稲毛神社のお祭り「山王祭」を観光資源として捉えることについて積極的な意見・提言を重ねてきました。

そうした中、昨秋に示された京急川崎駅周辺地区に関する行政の考え方は、駅の西側での商業施設等の整備、京急川崎駅～JR川崎駅～ラゾーナ川崎のアクセス整備など偏りのある意向が示され、地元地域の方々よりさま

さまざまな意見が寄せられています。私も、歴史的な地域資源が豊富で住宅街と商店街が密集する東側との連動性を確保しなければ、駅周辺全体の賑わい創出は図れないと考えております。

そこで、昨秋に発表した行政の考え方に至った経緯と地域の反応や要望について、また、今後の住民理解について、そして、これらを踏まえて具体化していく内容について質問致しました。答弁では、駅の東側への波及効果の高いまちづくりを行うこと、西側に限らず東側も含めての歩行者ネットワークの形成などを行うことが明言されました。また、地元根差し調整に当たっている川崎区役所、商店街などの地域経済・観光施策を担う経済労働局にも京急川崎駅・JR 川崎駅の東側の持つポテンシャルについて答弁を求め、今後は再開発に伴うまちづくりにしっかりと連携・調整を図ることを確認致しました。

また、質疑の場では取り扱いませんでした、行政担当者とコミュニケーションを取り、住民説明会の機会の確保とその方策やコロナ禍で開催できなかった説明会の資料を市のウェブサイトに掲載することなどの調整を行っており、引き続き、周辺住民が長年抱いていた、そして、私たちが受け継ぎ育んできた歴史・文化の価値観を共有し、今後の取り組みに反映されるように地元の議員として地域の方々の想いを声を代弁し続けて参ります。

**ワクチン接種、市内対象者の70%が1回目接種完了。
56%が2回目接種を完了！**

市内のワクチン接種状況について、全対象者の70%が1回目接種を、56%が2回の接種を完了したとの発表がありました（9月27日24時現在）。

年代別では、

- ・60歳以上 <1回目>88% <2回目>86%
- ・40~59歳 <1回目>71% <2回目>56%
- ・39歳以下 <1回目>55% <2回目>34%

と、各年齢層で着々と接種が続いています。川崎市では引き続き、若年層のワクチン接種の促進に向け、取り組みを加速させ、また、中高生等の接種についての取り組みの体制も確保致します。